

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200248		
法人名	有限会社 ハート		
事業所名	グループホーム安里		
所在地	佐賀県唐津市佐志1156-34		
自己評価作成日	平成27年 1月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年 2月19日	外部評価確定日	平成27年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>唐津湾を望む高台に建つ木造平屋建ての1ユニットのホームである。リビングから、唐津城をはじめ唐津市内や虹ノ松原が一望でき、広い空と海は入居者様や来訪者の目を楽しませている。リビングは広く 明るく、空に続いて見えるように空をモチーフにした壁紙の天井になっている。ホーム内は不快な臭いがしないように 消毒や換気に気をつけている。運営は、代表者が認知症介護指導者及び認知症ケア専門士という事もあり、ご利用者様中心で職員と共に入居者様を主体としたケアに取り組んでいる。又、看護師や吸引・経管栄養手技研修修了者を配置し、吸引が必要な方、胃ろうの方やインスリンが必要な方の受け入れもしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所のいちばんの特徴は、高級リゾートホテルを思わせる様な見晴らしの良い景色と素晴らしい眺めである。玄関を入ると正面眼下に広がる壮大な景色は圧巻で、唐津湾や唐津港、唐津城などが遮る物なく広く見渡す事ができる。この景色は、日中だけではなく、ライトに彩られた夜景も素晴らしく、事業所建設前は夜景観賞の名所であった場所である。この壮大な景色と美しい夜景は、入居者の目と心の保養になっており、家族などの面会者の楽しみにもなっている。「出勤したら入居者一人ひとりに明るくあいさつする」「行動する前には入居者に声掛け(説明)する」「暖かい心でスキンシップを図る」「否定的な事はしない」という安里のルールを作り、職員同士は協働して支援にあたっている。管理者は、職員に対し、「寝たきりの入居者が多い中、いかに家庭的な対応を行うと良いか。」ということを心がける指導を行っている。また、職員研修にも力を入れており、毎月の事業所内勉強会では認知症をはじめ、リハビリや医学知識(加齢に伴う心身の変化)・病気・医療に関する事が取り上げられている。施設外部研修にも参加しやすい環境づくりに努めている。加齢に伴い医療的処置を必要とする入居者が増えている現在、看護面で安心して利用できるホームである。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	迷った時は見れるように玄関、職員トイレに掲示し、朝の申し送りで唱和している。各自のネームプレートの裏にもつけている。又、安里のルールを作っている。	地域に開かれた施設を目指す法人の理念を基に、「家族・笑顔」を大切にされた事業所の理念を作っている。職員の行動の基になる「安里のルール」があり、毎朝ルールに沿ったケアの確認を行い、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議をきっかけに地域の文化祭に作品を展示したり、神社のお祭りに参加、あるいは地域の獅子舞等に来て頂いている。福祉施設の夏祭りには花火大会、運動会に参加して楽しんでいる。	地域との関わりを大切にされた支援を心がけている。地域の催しや清掃活動などには積極的に参加し、事業所の夏祭りや催しに地域住民の参加を呼び掛けている。区長を通して地域の情報収集や地域への情報発信を心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席された地域の方(区長さん、民生委員さん、福祉施設の方、交番、消防署等)に認知症の議題に触れ情報を流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護サービスの内容や行事報告が行われそこでの意見を今後のサービスに生かしている。	運営推進会議は、行政職員や区長・民生委員、法人外他施設代表の参加で開催されている。会議は、事業所の現状を写真のスライドショーで説明する事から始まり、活発な意見交換や情報交換が行われている。委員からは、他の施設の情報や市の取り組み、介護保険制度など、現状に即した説明もなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より気になる事は窓口に出向いたり、電話をしたりして相談している。又、月末には空き状況の調査をされており、報告している。	行政担当者が運営推進会議のメンバーでもある事から、日頃から協力関係が有り、連絡を取り合う関係を築いている。問題点や分からない事があればすぐ相談でき、助言を頂ける関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	～身体拘束排除宣言～の内容書いた紙を掲示して身体拘束ゼロを目指している。	契約時に入居者と家族に事業所の方針を説明し、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。管理者は、職員に「入居者に対してダメや待つと言う言葉を使用してはいけない」と伝えており、職員は精神的な苦痛や言葉による苦痛のない支援を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修に出向いて学ぶ機会を持ち、伝達講習を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修に出向いて学ぶ機会を持ち、伝達講習を行うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望が出たら、職員会議に出して改善するように努め運営に反映させている。	職員は、入居者に寄りそい話す事を心がけ、要望の把握に努めている。また、年に1回家族会を開催し、要望を聞く機会を設けている。出された意見や要望は検討し、行事の前には情報を必ず家族に知らせる様になるなど運営に活かされている。重要事項説明書に苦情相談窓口・外部苦情相談窓口を明記し、家族に説明している。	面会に訪れる家族が少ない事もあり、事業所側からの情報発信の手立ては多いが家族からの意見や要望を把握する機会が少ない。家族アンケートを実施するなど、より多くの意見・要望を聞く働きかけを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に出して話し合い、改善するように努め運営に反映させている。 又、日頃より気になる点がないかなど聞くようにしている。	毎月職員会議を開き、ケアに関する意見や提案を聞いている。管理者と職員は普段からよく話し、何でも言える関係ができています。管理者は職員の意見を聞く様に心がけ、職員は気付いた事は管理者に伝える様に努めている。出された意見や提案は、医療器具の充実や備品購入、待遇面に至るまで、運営に活かせるよう検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回3月頃個人面談をして、悩み、相談、希望を聴き、その個人を知るようにしている。 又、顧問税理士、労務士に相談しながら働きやすいように整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を出来る限り、個人のレベルに合わせ、平等に受けることができるようにしている。 又、新人職員には教育係をつけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	唐津市のグループホームの集まりで、月に1回勉強会があり、できるだけ参加するようにしている。 ホームに持ち帰り伝達講習をしてサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人さん意向を聴き、ケアプランを作成して説明するようにしている。 (同意して頂けたらサインをもらうようにしている)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さん意向を聴き、ケアプランを作成して説明するようにしている。 長期来られないところは郵送して理解を得るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様の意向を聴き、ケアプランを作成して説明するようにしている。 (同意して頂けたらサインをもらうようにしている)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に挙げていて、日頃から上目線ではなく共に過ごし支え合うように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時には、お茶を出し 本人さんとの時間をゆっくりと過ごして頂くように努めている。 又、本人さんの近状報告をし、日頃よりコミュニケーションをとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聴きながら外出、ドライブ、自宅への帰省などを支援している。 馴染みの方が面会に来られた時は、お茶・お菓子を出したり ゆっくりと寛げるようにしている。	契約時に入居者の情報収集を行い、馴染みの人や場所との関係を把握するように努めている。波戸岬や呼子朝市通りに出かけたり、自宅や馴染みの店付近に出かける等、入居者の生活歴を大切にしたい支援を心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにソファを置き、利用者様同士が話しやすくしている。又、トラブルが起きないように間に入りコミュニケーションの架け橋となっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたらお見舞いに行ったり、電話をしたり近くにお寄りの際は顔を出すようにと話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人・御家族様に対する意向を聴き、出来る限り本人本位でいられるようにしている。	職員は、アセスメントを通し、入居者の事をよく理解してケアにあたる様に心がけている。意思を伝える事が可能な入居者とは日々の会話の中から直接聞き、話せない入居者には家族から聞き取ったり、職員が思いを感じ取る様に努めている。保湿クリームや加湿器を用意する等、本人に合わせたケアを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々コミュニケーションをとり、本人様の昔話から聞き出し、又 御家族様から情報を得て、フェイスシートに落とし込んで把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々コミュニケーションをとり、フェイスシートに落とし込んで把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を開き、それぞれの意見を聴き、介護計画を作成している。	具体的な介護計画が立てられており、目標や援助内容が分かりやすく書かれている。毎日、ケアプラン実施表で確認がなされ、毎月のモニタリングや職員会議、サービス担当者会議と合わせて、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテの経過記録と熱計表は日勤、夜勤、特別に変化あった時に記載する。又、スタッフ全員に伝えたいことは、伝達ノートに記載して情報を共有し実践や介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じ、他の事業所の支援体制が取れるようにしている。 (デイサービス、ショートステイ、訪問介護サービス等)		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、慰問のボランティア、警察、消防の方に協力して頂き、暮らしを楽しむことができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関をかかりつけ医とし、必要に応じて往診が受けられるようにしている。定期受診は、御家族様が付き添うが できない時はスタッフが対応している。	受診は、往診が基本の為、事業所協力医への変更をお願いしているが、入居前からのかかりつけ医の継続受診も支援している。往診できない時の通院は、職員が対応している。往診、通院、どちらも受診結果は、家族に説明・報告がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師がいて日常の健康管理や、適切な受診看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会に行ったり、電話をしたりして、医師、看護師に情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	時期が来たら、かかりつけ医、看護師、スタッフで終末期のあり方について話し合い、本人や御家族様の意向を確認し、対応方針を文書で説明し、同意を得ている。	「重度化した場合の対応に係る指針」があり、契約時に本人及び家族に説明が行われ、同意を得ている。入院や重度化するなど入居者の状態に合わせて、家族に「看取りに関する説明」を行う体制ができている。入居者・家族・主治医・事業所は方針を共有しており、これまでの看取り経験は1名である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	明確にし		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、定期的に訓練を行い(5月、11月)避難方法が身に付くようにしている。	年2回、消防署指導の消火・通報・避難訓練を実施している。また、原発事故に備えて窓を閉める・空調を止める等の屋内避難対応訓練も実施している。最近、消防団や近隣施設・他事業所等が参加しての大規模な合同消火避難訓練を実施しており、近隣施設との協力関係ができた。災害に備えて食料や飲料水を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から尊厳をもって接するように理念や、教訓を見につく場所へ掲示して、本人の気持ちに配慮した言葉かけが さりげなくできるようにしている。	個人情報の使用に係る同意書があり、個人情報使用条件を明確にしている。契約時に入居者・家族に説明して同意を得ている。職員は、接遇研修を受けており、入居者本人の人格を尊重した言葉かけや口調に注意し、尊厳をもった支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聴き、出来る限り自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内での全体的日課はあるが、その中でもどのように過ごしたいか希望を聴き、ケアプランを作成して 個々にそった対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に関しては、訪問美容を利用したり、行きつけがある方は 御家族様又はスタッフが付き添い その人らしい身だしなみができるようにしている。 髪の毛を染めたい方がいれば 対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは本人の希望を聴きながら 又、食べやすい形で提供し、少しでも食べて頂けるように支援している。出来るご利用者様には 寄り添いながら皮むきなどを一緒にしたりしている。	契約時に、好き嫌いなどの嗜好調査を実施し、入居者の好みに沿った献立作りを心がけている。食事は、職員も一緒にテーブルで同じものを食べ、入居者と職員は楽しい会話をしながら食事時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、朝・昼・夜とカルテに記入して、摂取量が少なければ バイタルサインチェックをして医師に報告し指示を仰ぐ。健康のパロメーターとして早期に異常の発見に努め一人ひとりに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人のレベルに応じた口腔ケアをしている。自力でできる方、一部介助が必要な方、全介助が必要な方・・・必要に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレにチェック表を作ったり、トイレの位置を案内し、必要時一部介助し支援している。	寝たきりの入居者も多く、殆どがおむつ利用であり、自立につながる支援はしていない。個人の排泄回数を記録し、その排泄パターンを把握してトイレに誘導している。	パッドやおむつにするのが当たり前と考えず、個人の排泄パターンを把握して自立につながる支援を期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	旬の繊維の多い野菜を食材に使用したり、10時・15時はお茶したり、個々に合わせた運動したり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応曜日は決めているが、お風呂に入りたいと希望があればシャワーを浴びたりしている。又、ゆっくり入りたい方には時間を急がせないように心掛けている。入浴を拒否された方にはタイミングを図り声掛けしている。入浴剤で温泉気分が楽しめるように工夫している。	入浴は、個浴で週3回が基本であるが、要望があればできる限り支援している。リフトも設置され、身体機能が低下した人も安心して入浴できるように支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温には気をつけ、エアコン・ファンヒーター・空気洗浄機・加湿器を使用したり、特別起床時間を設けておらず 本人が起きたいときに起きられ、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効、副作用が理解できるように、一人ひとりの最新情報の薬の効能書きを各個人のカルテに綴じて情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴を聴取して、希望に添った楽しみ、役割の支援をしている。(個別に好きな音楽を聴いたり、時代劇や刑事ドラマなどのテレビをみていただいたり等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、ドライブ等、希望に添った外出に努めている。	隣接事業所や近くの施設までの近隣散歩に行ったり、入居者の要望でドライブや買い物に同行するなどの外出支援を行っている。管理者は、元気な人は外に出たいという欲望がある事を理解し、気候の良い時は外に椅子を出して日向ぼっこなどの外気浴も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したいという希望があれば、1万円ほどは持てるようにし、ほとんどの買い物などは施設が立て替えてお金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や、大切な人に電話が出来るように支援してある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃より換気をしたり、快適な温度でいれるようにエアコンを入れたりしている。又、玄関 リビングには花を飾ったり、観葉植物をおいたりして居心地よく過ごせるようにしている。	居間兼食堂は広く、眼下に唐津湾が一望できる壮大な景色が広がっており、入居者の癒しの場となっている。加湿器や空気清浄器が置かれ、消臭剤や芳香剤を活用して室内に不快な臭いが発生しない様に気を付けている。花や手芸作品で季節感を取り入れている。居間のそばに菜の花やコスモスなどの季節の花を植え、寝たきりなどで外出できない入居者にも季節感を味わえる支援がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには自由に過ごせるソファなど置き、談話したりテレビを観たり、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、布団、テレビ、ポータブルトイレなど、使い慣れた物を持ち込み、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	入居契約時に、自宅で使い慣れた馴染みの品などの持ち込みを勧めている。危険物や貴重品・高級品以外なら何でも持参でき、仏壇やタンスを持参された入居者もいる。写真やカレンダー、手芸品などが飾られ、居心地よく過ごせる居室づくりが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにして段差をなくしたり、廊下、お風呂、トイレなどに手すり、ナースコールを付けたりして出来るだけ自立した生活が送れるようにしている。日付、曜日が分かりやすいように大きい手作りカレンダーを使用している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない